

◎平出水への疎開
宮川理徳さんの巻
長野 侃さんの巻

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

みちのり
宮川理徳さんすなお
長野 侃さん

集落支援員だより

大口平出水への学童疎開を語る②

学童疎開での過酷な状況は前回の取材でわかりました。
人との関わりやそのときの気持ちはどうだったのですか？

○平出水の家一別れて行くとき一にや、おいが一番ちんかったからか、じいさんがおいをかるて連れて行ったとや。おいと同い年の子もおったてやばって、おりょーばよろうて風呂ーいれてよ。出たとき一にやー、膝枕して、耳そうじもしてきれーにしてくれてよ。どけー行くときも連れて行って、大事にしてくれたとよ。

○空襲はあったとよ。大口から物資を運んでくいから。それ一向けてバババババーチゅうでくいわけや。授業しおれば先生が「山さなー逃げー」ちゅうて。ババババーチゅうて狙うて撃つわけや。そしてこう上がってや、またバババババーチゅうて機銃を撃つたてや。



—1945年7月アメリカ陸軍航空軍報告—
「日本人すべての男女・子どもを動員して、すべての日本人が武装した兵士である。よって、一般市民はいない。」

せんめつ
2020年8月8日放映NHK「果てなき殲滅戦」より

○今でもなんじやこんじやちゅうていろいろ送ってくれおいとよ。種子島の土産に魚とか砂糖とか飴とか入れて。こうして年に一回は送るようにしといとや。初めて平出水に行ったとき一にやー、わざい歓迎してくれてなー。うれしかったなー。



○隠居家が隣一あってや、ばあさんがわざいか大事にしてや。牛も馬もおったし、そあんとの世話をせーば「スナちゃん、あれしてくださいやい。これしてくださいやい。」ちゅうてな、頼り一されてや。



○おいはアマイワロー やったから、甘柿をたいてーすかーて食うたろ。疎開にやー、盗るーしー行ったようなもんや。追われたこともあいろ。なんの時やったか「種子島ん子はススロカ（足が速い）ねー。」ちゅうて。盗一大とき一にやー素早かったろ。

○平出水の家んしから大事にされたからちゅうて、寂しかったろ、やっぱー。まともじやなかろー、人間なー。友達がおったから励まされたもんでなー。やっぱい、親んこた一思うたろ。

○気をつこうた分、たいそーかったなー。ばあちゃんがよろーて行こうちゅうて、「んーにや」とは言いならんろーがー。飯を食うときも「よく食べるねー」と言わりょーごとなかし。親から「スナちゃんはよく働くねー」と言われーば、息子んしからよか目で見られんし。身の置き方ちゅうとが他人の家じやー、もう、気をつこーた。

疎開児童も米軍機に狙われていたということがNHKの番組で明らかになりました。また他人の家で生活するということは、どれほど気詰まりだったのかわかりました。戦後、生活が落ち着いてから平出水校区と上西校区の交流が始まり、それは今も続いています。
※疎散と疎開 「疎らに散る」という意味の疎散では、敵の攻撃にたじろぎ、逃げるという意が含まれかねず、「疎らに展開する」という積極的な意味で疎開という言葉が使われるようになりました。昭和19年9月28日付け朝日新聞「人口疎開の方針明示」より。